

神戈陵を渡る風

令和3年度 川辺高校 校長通信 第031号

令和3年11月26日(金)発行

創立120周年記念式典を終え、11月も残りわずかとなりました。期末考査の真っ最中です。前半2日間の出来映えはどうか？ 準備万端で完璧でしたか？ 後半戦に向けてこの土日もしっかり頑張りましょう。来週から12月、まだまだ色々なイベントが続きます。自分のすべきことや出来ることに一生懸命取り組みましょう。

辺高歴史探訪

☆第四中学校の設置を川辺に決定した人☆ 加納久宜 (かのうひさのり)



(明治27年から36年まで鹿児島県知事を務める)

加納知事顕彰碑
かごしま県民交流センターの前庭にひときわ目立つ石碑が建立。



最後の一宮藩主(千葉)でもあった加納公は、西南戦争後二十年近くたっても県の内政は混乱していた鹿児島を「不偏不党」のもと、様々な県政改革と殖産

興業政策を断行しました。特筆すべき改革に教育改革があります。「教育こそ人の基礎を成すもの」と当初は鹿児島の小学校における就学率は全国平均を大きく下回り56%であったが、わずか3年で、全国のトップレベルの就学率92%に押し上げた。また、地域や県、更には国のリーダーにもなれる人材を育てるために高等実業教育の充実に取り組み、第七高等学校造士館を大黒柱に旧制中学校を県内各地に開校していった。その中の1つが当初は鹿児島県尋常中学校の分校として鹿児島県第四中学校(1900年)が設立された。翌年には鹿児島県立川辺中学校に改称された。この第四中学校の設立に当たって、南薩では加世田と川辺、知覧の3つの村による誘致運動が激化し、三つ巴の熾烈な争いを展開していた。この時期に、川辺の有力者(地元出身の県議や村長など)が奔走し、加納知事による川辺村を一望できる荒尾峠からの視察を実現し、美しく雄大な山系、田園の景観に目を奪われた加納知事によって、この川辺に南薩の中学校を設置する裁断が下されたということです。

☆第四中学校の基礎を作りあげた人☆ 岩崎行親 (いわさきゆきちか)



岩崎行親先生は現在の香川県丸亀の出身で東京英語学校(明治初期の最高学府)に学び、札幌農学校(現北海道大学)の二期生として「少年よ大志を抱け」で有名なクラーク博士に学ぶ。農学士の称号を得て公職に就き、加納知事の懇請を請け、明

治27年4月より鹿児島尋常中学校で教職に就く。同年12月には同校の校長となり、川内、加治木、川辺の旧制中学校創設に向けて尽力しました。明治34年には第七高等学校造士館(のちの鹿児島大学文理学部)の校長に転じました。岩崎氏は鹿児島の当時の時代的な要求に応えて大きな存在感を発揮し、鹿児島県の「中学教育(旧制中学校を指す)の父」と言われる方です。加納公の「きっかけは何であれ、貧しい者でも、平等に教育を受ける機会を与えることで、人としての大きな財産を得ることになり、人こそ国を支える基盤である」と思いに共感した岩崎先生は、教育の普及にありとあらゆる手段を尽くしました。現在の川辺高校につながる礎は、岩崎行親先生の偉大な功績の一つだと思えます。



鹿児島市吉野寺山にある石碑には、岩崎先生の読まれた漢詩「寺山之賦」が刻まれています。

川辺小出前授業

11月13日(土)

今回は、川辺中学校で理科実験の出前授業を行いました。この日は、川辺小学校で6年生を対象とした理科実験の出前授業を実施しました。新型コロナウイルスの感染防止対策として、1つのクラスを二つに分け、理科室では紫キャベツ色素のお絵描きと体育館では液体チツ素を用いた実験を行い、途中で場所交代しながら1組と2組の全員にすべての実験を体験してもらいました。参加した小学生は目を輝かせながら楽しそうに取り組んでいました。講師として参加した本校生徒も大変勉強になり、今後の活動に向けたエネルギーをもらえたようです。(次回は丸小小学校です)



小6の素直な反応に感謝・感激・感動!!



川辺小学校の岩戸校長先生から激励と御礼の言葉をいただきました。

人権同和教育講話

11月11日(木)

今回の合同LHRは、人権・同和教育について学ぶ講演会が開催されました。講師は県人権・同和教育研究協議会会長の西 良博先生でした。人権を守るとは、「安心してのびのびと自分に自信を持って生きる」ことだと言われ、自分を好きになるように、時として「自分と向き合うこと」が大切だと話されていました。



散策日記 2

11月中旬の土曜日

【荒尾峠】

土曜日の午後、川辺から知覧に向かう旧道を散策してみました。この旧道沿いには、川辺を一望できると言われる荒尾峠があります。今は、山の木々が大きく成長しており、昔のような眺望は望めませんでしたが、当時の息吹は感じることが出来ました。この場所で加納知事が川辺に第四中学校の開校を決断なされたと思うと大変な感動を覚えました。120年越える本校の歴史を思うと、改めて気の引き締まる思いと頑張る勇気を頂きました。



川辺の東正面に位置する荒尾峠付近からの眺望

(大きな木々の隙間に川辺をのぞき見ることが出来ました)



川辺町宮付近の高台から田上岳方面の眺望
(中央奥は金峰山)

川辺に旧制中学校が設置されたことで、南薩の最高学府として、また、学術・文化の起点として川辺高校の歴史が綴られてきました。